

桂川右岸流域下水道洛西浄化センター 下水汚泥固形燃料化事業

洛西浄化センターの汚泥焼却炉は、供用後 12 年が経過し老朽化が進み更新が必要な状況となっています。更新に当たっては、下水汚泥処分先の長期安定確保を目指すとともに、バイオマスエネルギーとしての下水汚泥の有効利用及び地球温暖化防止に資することを目的とし、脱水汚泥を石炭等の代替燃料とする「固形燃料化施設」を導入します。

固形燃料化施設は、民間企業が独自の技術を有し標準的な仕様がなく、また、製造された燃料化物を長期的・安定的に有効利用するため、施設の設計・建設、維持管理運営を一体的に行う必要があることから、施設の設計から維持管理運営までを一括契約する DBO 方式^(※)とし、平成 25 年度から事業着手し、平成 26 年度に設計が完成しました。

平成 27 年度は、固形燃料化施設の建設に着手します。

※公共が資金を調達し、施設の設計 (Design)、建設 (Build) 及び維持管理運営 (Operate) を一括して民間企業に委託する方式

◎事業概要

| 全 体 計 画 | 平成 26 年度までの実績 | 平成 27 年度計画 |
|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業期間 設 計 ・ 建 設 : H25～H28 維 持 管 理 運 営 : H29～H48 ・ 処理施設 固形燃料化施設 50t/日 ・ 総事業費 約 38 億円 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 設計業務 固形燃料化施設設計 ・ 事業費 約 0.2 億円 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 建設工事 土木・建築・機械・電気工事 ・ 事業費 約 7.5 億円 |

◎事業効果

○製造する燃料化物を石炭代替燃料として利用できるため、長期的・安定的な汚泥処分が可能となり、また、温室効果ガスが削減できる。

○DBO 方式により、民間企業の創意工夫・ノウハウが活かせることからコスト縮減が図れる。

◎既設 3 号焼却炉



◎固形燃料化物 (例)

